

春の「るんるんフォレスト」 学校林活動を支援（標茶町立中茶安別小中学校）

標茶町立中茶安別小中学校の学校林「るんるんフォレスト」で、全校児童生徒26名が参加して「春の学校林活動」が行われ、当ふれあいセンター職員と根釧西部森林管理署真竜森林事務所森林官、標茶森林事務所職員の6名が講師として参加しました。

始めに、昨年の秋の活動で設置した積雪対策の支柱と野ネズミ対策の器具の撤去作業を全児童で行い、その後、小1～4年生と小5～中学生までのグループに分かれて、それぞれの活動を行いました。

低学年グループの活動では、今年初めての学校林活動であること、また、1年生は初めての参加であることから、ワクワク感を感じてもらおうと「コウモリとガ」というネイチャーゲームを行い、これを通じて、食物連鎖やよく聞くことの大切さ、集中力についても学びました。

また、「森林のおいたち」や「森林のはたらき」等をパネルを使用して説明し、子どもから、「木が私たちの生活の中でいろいろなものに使われていることがわかった。」「これからも、ずっと森林を大切にしていかなければならないと思った。」などの感想が出されていました。

一方、高学年グループでは、「樹木を測って樹木炭素量を調べよう」と題し、測高器（木の高さを測る器具）、輪尺（木の太さを測る器具）を使って、カラマツとミズナラを測り、樹木の炭素貯蔵量について調べました。時間の関係で炭素貯蔵量の計算まで至りませんでした。網倉所長からまとめとして、地球温暖化や二酸化炭素と植物の関係等の話がありました。

今年は春の訪れが遅く、あまり春の季節感を感じてもらえなかったかもしれませんが、8月に実施される夏の学校林活動に向けて学校と連携し、さらに充実した活動になるように、取組んでいきたいと考えています。



▽「コウモリとガ」の様子



▽ 高学年のまとめの様子